

弘前大学
資料館
第36回
企画展

とびだせ学芸員!展

弘前大学の学芸員教育

2024.7.27日-10.20日

10:00-16:00(日・祝休館)

※8月13・14・15日および9月7日は休館、10月20日開館

弘前大学の学芸員課程と博物館実習Ⅱについて

弘前大学の学芸員課程は30年以上にわたり、多くの学芸員資格取得者を輩出してきました。学芸員資格を取得するには、各学部で修得する単位のほかに、博物館概論、博物館教育論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、生涯教育論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱなどを中心に数多くの科目を履修します。これらの科目を修得して、学芸員資格を取得した本学の卒業生たちは、文系・自然系を問わず、各種博物館のほか、埋蔵文化センター、行政などの幅広い機関で活躍しています。

学芸員科目のなかで、学生が最後に履修する科目が博物館実習Ⅱです。2020年度には、平川市郷土資料館の展示の

一部(民俗展示の一部改良とこぎん展示)を制作しました。また2021年度からは、弘前大学附属図書館が所蔵する旧制弘前高等学校資料の整理、さらに2022年度からは履修者の増加により文系班と自然系班に分かれ、文系班は旧制弘前高等学校資料の整理を続け、自然系班は学内に生息する昆虫類を継続的に捕獲・収集し、標本をつくってきました。

本企画展は2021年からの3年間の博物館実習Ⅱの成果をもとに、①弘前大学の前史である旧制弘前高等学校史の一端と②弘前大学文京町キャンパス生息昆虫類標本を展示します。また9月14日(土)からは、今年度の博物館実習Ⅱ履修学生たちによる新しい実習成果を展示します。



旧制弘前高等学校資料

弘前大学附属図書館には多くの旧制弘前高等学校資料が所蔵されています。そのなかには、誰がどのような形で使い、図書館に所蔵することになったのかが分からない未整理資料が含まれていました。

博物館実習Ⅱの文系班は、2021年からそれら未整理資料を整理し、背景情報の調査に取り組んできました。3年間の調査を通じて、未整理の鉱物標本は1921年から1938年にかけて旧制弘前高等学校の教授を務めた小岩井兼輝先生に関連したものであることがわかりました。そのほか、所蔵経緯が伝えられている貴重資料や教材も改めて調査し、当時の学校の様子や学生のくらしを明らかにしてきました。

旧制弘前高等学校資料の展示では、これまでの活動で明らかになった旧制弘前高等学校の教材や教育、学生たちの日常などを紹介します。

弘前大学文京町キャンパス生息昆虫類標本

弘前大学文京町キャンパスには農学生命科学部実験農場をはじめとして、多くの緑地帯があります。それらの緑地帯には、チョウ類をはじめ、多くの昆虫類が生息しています。

博物館実習Ⅱの自然系班は、2022年度から弘前大学の緑地帯に生息する昆虫類を捕獲して昆虫標本を製作してきました。標本製作はまだ2年目で、大きな成果が出ているわけではありません。しかし、年々積み重ねることにより、キャンパスやその周辺の環境変化を定点観測することができるようになります。

博物館は既存の物質や資料を収集するだけでなく、研究活動を通じて、地域を知るための新しい資料を作り出していく役割も担っています。本展示では、身近な自然をみつめ、資料化する試みとして、弘前大学文京町キャンパスに生息する昆虫の標本を紹介します。

